

ビクトリア女王と欧州諸王家の血友病

三輪 卓爾

一九世紀初頭の英国では、国王ジョージ三世が精神異常と失明によって廢人となった(遺伝病ポルフィリアとする説が有力)ため、のちのジョージ四世が摂政となっていたが、その五人の王女たちは子がないか中年以後の独身で、七人の王子たちの多くは借金に苦しみ、身分の低い女性が結婚相手で、子供たちに王位継承権はなかった。国民は摂政の一人娘シャーロットに希望を寄せたが、彼女がレオポルド(のちのベルギー国王レオポルド一世。総人口六万というドイツの小公国ザクセン・コブルク・ゴータのプリンス)と結婚したものの、長い陣痛のあげくに死産をして自分も死んでしまったとき(一八一七年一月)、将来の王位継承者を失った英国は重大な危機を迎えた。ここで始まったのは、国王や国民の認める結婚をして、将来の国王の父になるとうとする、もういい年をした王子たちの必死のレースであった。

○
第四王子ケント公エドワードも多大の借金を抱え、二七年連れ添った女性があったが、彼もこの女性と別れて新規の結婚を目ざした。その相手になったのは、亡くなった姪シャーロットの夫レオポルドの姉で、不幸な結婚で二児をもうけたあと寡婦になっていたビクトリアである。ケント公の熱心な求婚のあげくに結婚した二人のあいだに、一八一九年六月、将来のビクトリア女王が生

まれた。

ケント公は長い軍歴で鍛えた頑健さを誇っていたが、その翌年肺炎にかかって、あつというまもなく亡くなった。しかし、前記のレースのライバルだった兄弟たちに子供はできても育たず、ビクトリア女王は一八歳で即位して、六四年間在位し、大英帝国は内外に隆盛を誇るようになった。

以上の経過を述べたのは、ビクトリア女王の子孫に多く見られた血友病の原因が、女王の父親ケント公にあつたらしいからである。女王の父方にも母方にも、血友病は見られていない。女王誕生のとき、ケント公は五二歳という高年齢だったが、そのために精子形成過程で突然変異を生じたのであろう、というのが現代の遺伝学者の推論するところである。

○
ビクトリア女王の母方の里ザクセン・コブルク・ゴータ家には、当主エルネストに二人の年子の息子があり、弟のほうのアルバートはビクトリア女王と同じ年で、同じ産姿が取り上げていた。ビクトリアはこのいとこのアルバートに強い恋愛感情をいだき、二人は一八三九年に結婚した。二人のあいだにはプロシアに嫁いでウィルヘルム二世(カイゼル)の母となった長女や、のちのエドワード七世をはじめ四男五女が生まれたが、四男が血友病、次女と五女がそのキャリアで、長女もキャリアだったらしい、とされる。

四男と五女の分娩には初期のクロロホルム麻酔がジョン・スノウによって施されているが、口演では女王とその子孫である九人

のキャリアと、英国、ロシア、ロシア、スペインの諸王家にわたる九人の血友病患者の生涯を、とくに患者と母親であるキャリアとの関係に注意しながら述べた。

日本医史学会関西支部昭和六一年春季大会

共催／京都医学史研究会

とき 昭和六一年五月二五日(日) 午前二〇時から

ところ 京都市左京区吉田河原町一五―九

京大会館二階(電話〇七五―七五二―八三一一)

プログラム

一般演題

- 一、芥子と罌粟考 宗田 一(京都市)
 - 二、産科医の墓と民間信仰 森 納(鳥取県)
 - 三、山脇東洋と若狭 杉立 義一(京都市)
 - 四、胎教説の進展 赤堀 昭(小太郎漢方製薬)
 - 五、京都医家・本草家と津藩の関係——平松築斎 日記を中心として 茅原 弘(津市)
 - 六、京都の医史に関する二軸——沢庵宗彭筆「神農像」、馬東筆「達磨像」 岩治 勇一(大野市)
- 追悼講演
- 中野操博士を偲んで 大阪大学名誉教授 藤野恒三郎
特別講演
- 針灸の起源について 京大人文学研究所教授 山田 慶児
- 七、京都驅黴院の変遷 永利 満雄(洛東病院)
- 八、宇都宮徠と私立起廃病院(大分) 佐久間温巳(西尾市民病院)
- 九、飯田攪隠について